

未来から今を見る

創立記念日に寄せて

2018.10.22

No.34

校長 渡邊 幸二

金曜日は創立記念の講話をさせていただきました。実は二日前までは全く違うお話をさせていただく予定だったのですが、あるのっぴきならない事情により、先日のようなお話に急遽変更させてお話をいたしました。

歴史と伝統がある –それはどういうことなのか?–

私が伝えたかったことは、お聞きの通りいつもと同じです。「自分たちの学校は自分たちで創る」こと、「みんなと共に、みんなのために生きる」「公益・貢献」の浜田ブランドのことでした。

創立から135年の歴史と伝統があるからこそ、今を大事にするということ……何年前だって、先人たちがその歴史(=今)を必死になって創ってきた、自分たちの学校に誇りをもって、自分たちの力を合わせて創ってきたということです。2018年の今から過去を見れば、それは「古いもの」「昔のこと」かもしれませんが、その時代に生きていた人はまさしく「今」という瞬間を、必死に生きていたのでしょう。URさんが「北前太鼓」と言ってくれましたが、ご存知の通りそんなに歴史は古くはありません。しかし、それを135年目の今の子どもたちが、一生懸命にがんばっていることが、「歴史と伝統」を創っている営みに他なりません。

未来から今を見たら……

たとえば50年後の2068年の創立記念日。そこから今日を見たら、きっと「古いもの」「昔のこと」に過ぎません。しかし、「あの頃はこんなことをがんばっていたんだな。」とか「だから今、こんなことをがんばっているんだ!」「この時からずっと続いているんだ!!」ということが、歴史であり伝統であるわけです。

だからこそ今、私たちが、子どもたちが集中して取り組むべきは、「今」を必死にがんばること、すなわちいつも言っている通り「公益・貢献」の浜田ブランドを創りあげていくことだと思うのです。私たち教職員も、そんな浜田小学校の歴史と伝統を創っているという自負を持って、日々の子どもの育成に励んでいきたいと思えます。

そんな思いでお話をさせていただきました。

そりっ
創立135年

135年前って?

明治17年

たくせいだい いちぶんこう
琢成第一分校

135年

れきし であつ
歴史と伝統がある

どうということ?

これまでの卒業生は何人いるでしょう?

創立135年

卒業生

17805人

17805人の応援団

こう えき こう けん
公益・貢献

浜田ブランド

校長講話と「きく」

学校だよりNo.11にも書きましたように、浜田小学校の大きな課題として「きく」がありました。私もあの講話の日、子どもたちが少し「聞く」を意識できるようお話させていただいていたのですがわかりましたか。

おそらく「聞く」は、先生方全員で意識すれば、そう難しくなくクリアできる課題だと考えています。校長講話の日の朝の会では「どんな話だったか、その大体を書く」なんていう活動を仕組んでいたただけなら、子どもたちの「聞く」意識も高まりますし、「大事なこと(要点)をまとめて書く」などという技能もつくかもしれません。せっかくの機会ですので、毎回でなくとも取り組んでいただけ、子どもたちの書いたメモなども見せていただけたらありがたいです。



「聴く」レベルには・・・

「聞く」レベルは、上記のように、教育課程の中に何かシステムを投入することで解決しそうな気がしますが、「聴く」はそうはいかないように思います。

おそらく、「聴く」は対話のベースになる“きき方”だと思うのですが、今の浜田小学校では難しいように感じます。それは、子どもたちの中に、そして残念ながら一部の先生方の中にも、最近マイスターがよくおっしゃる「リスペクト」が感じられないからです。この「他者尊重」、たとえ子どもにとって話す相手が自分より学年が下の子どもであろうとも、教師にとって相手が1年生の子どもであろうとも、それができないうちは「対話的な授業」の実現はありえないと思っています。



残念ながら、耳を澄ますと、子どもたち同士が呼び捨てにして会話をしています。ある教師が子どもを呼び捨てにして・・・本当に残念ながらそういう先生がまだいます。学校経営方針の中にも、「(2) 自尊感情(自己肯定感)を醸成し、思いやりの心(他者意識)を育成する」において

①対話・話し合いの重視

- 対話ができる環境づくり(学級づくり、児童との関係づくり)
 - ・温かな学級づくり
 - ・子どもを尊重する教師

②他者意識・相手意識を育成する教育活動の創造

- 日々の授業のかかわりの中で(話し方、聴き方、表現活動・・・)
- 日々の生活の中で(あいさつ、返事、言葉づかい、掃除・・・)
 - ・あいさつ(会釈)、「さん」付け

と述べました。

子どもも教師も「さん付けをしなさい」という単純なことではありません。対話や他者を尊重した学習・生活には、「子どもを尊重すること」「たとえ子どもでも、一人の人間として同等に扱うこと」が欠かせないと思います。それが、E先生のおっしゃる「リスペクト」する意義だと考えます。

子どもたちも、私たち教職員も、浜田小学校の歴史と伝統を創っている、お互いを大切にした「公益・貢献」の学校を創っている・・・そんな思いがひとつになって、これからも地域に信頼される学校を共につくって行きたい・・・強く願っています。